EU では生乳増産が継続する一方、乳価は前年比 2 割超低下

欧州委員会「牛乳乳製品市場観測サイト」2026 年 10 月会合報告より

欧州委員会が開設している「牛乳乳製品市場観測サイト(Milk Market Observatory = MMO)」の、経済委員会 10 月会合がビデオ会議方式で開かれた。同会合の報告書(*1)では、欧州連合(EU)の牛乳乳製品市場の近況として、①2026 年 1～7 月の生乳生産量は前年同月に比べて 3.3%増加し、増産傾向が続いていること、②同期間中の平均生乳取引価格は 1 キロ当たり 43 ユーロセント(76 円:1 ユーロ＝176.7 円/11 月 6 日)と、前年同月を 2 割超下回り、価格の下落が鮮明となったこと、③直近の平均乳製品価格は粉乳とホエイ製品が堅調に推移する一方、バター、チーズは弱含みの展開であること、などを報告している。

また、2026 年上半期の国際市況についても、主要輸出国・地域では生乳生産はここ数か月減速しているものの増加が続き、世界全体の乳製品貿易量も拡大していると報告している。EU では生乳価格は低下傾向にあるものの、食料品価格のインフレが続いている。生乳供給量の増加と価格調整が進むなか、粉乳価格の上昇と世界的な需要の強さに支えられ、乳製品市場は安定の兆しを見せている。ただし、地政学的紛争による供給・物流の混乱が続いているとしている。以下に報告書の要約を紹介する。(読みやすさを考慮し、Jミルクで小見出しなどを補った。)

MMO 経済委員会の第 56 回会合は、2026 年 10 月 6 日に、ミルクサプライチェーンを構成する以下の組織の専門家が参加して、ビデオ会議で開催された。

- COPA-COGECA(欧州農業組織委員会・農業協同組合委員会:生産者を代表)
- EMB(欧州ミルクボード)
- EDA(欧州乳業協会:乳業者を代表)
- Eucolait(欧州乳製品輸出入・販売業者連合:乳製品貿易を代表)
- Eurocommerce(欧州商工会:小売業を代表)

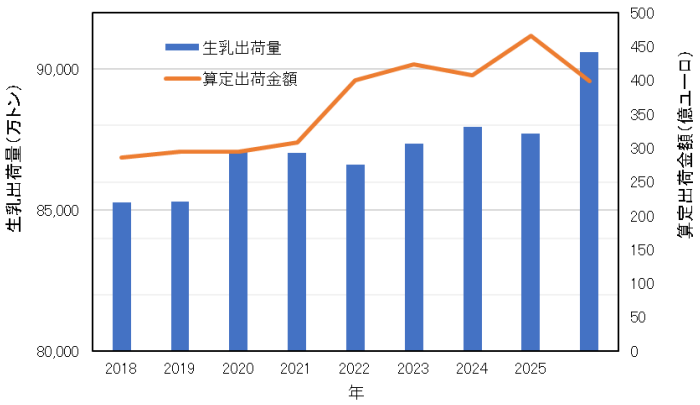
会合での情勢報告と情報交換では、次の点が強調された。

EU の 2026 年 1～7 月の生乳生産量は前年同期比 3.3%増加

EU の 2026 年 1～7 月の牛の生乳生産量は前年同期に比較して 3.3%とわずかに増加した(閏年調整済)。ただし、生産量の増加はここ数か月減速している(7 月は＋2.3 %)。算定出荷金額は約 399 億ユーロであり、前年同期に比べて 14.3%減少した(**図 1**)。

増加率が高かったのは、ドイツ(＋6.4%)、ベルギー(＋6%)、オランダ(＋4.5%)、オーストリア(＋7.4%)、スロバキア(＋7.2%)であり、5 加盟国(アイルランド、エストニア、ラトビア、

図1:EUの1～7月の生乳出荷量と算定出荷金額



ルクセンブルクの数値は非公開のため、含まれていない。
出典: MMO economic board meeting report – 6 October 2026
(*1)を基にＪミルク作成

ルーマニア、マルタ)でのみ減少した。

2026 年 1 月～7 月の EU の乳製品の生産量は、脱脂粉乳(＋10%)、バター(＋8.5%)、チーズ(＋3.5%)、飲用乳(＋1.1%)、発酵乳(＋4.9%)が増加し、全脂粉乳(－2.8%)は減少した。

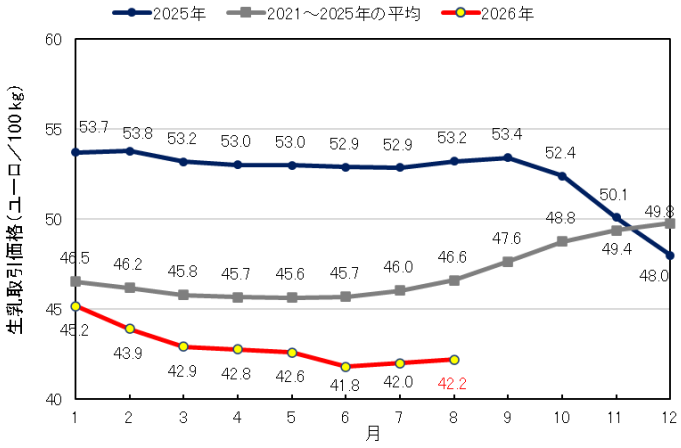
2026 年の EU の平均生乳取引価格は昨年の過去最高記録から下落

EU の平均庭先(牧場出荷)乳価は、2025 年平均で 1 キロ当たり 52.5 ユーロセント(92.8 円)と過去最高となったが、10 月から下落傾向にあり、2026 年 1～7 月の平均は 43 ユーロセントとなった(**図 2**)。この価格は前年同月と比べて 10 ユーロセント(18 円)低く、過去 5 年間の平均よりも 8.7%低い。7 月の生乳価格が昨年を上回ったのは、3 ヶ国(マルタ、キプロス、ギリシャ)のみであった。

2026 年 7 月に集荷された生乳の 3.3%が有機生乳で、その 75%はドイツ、フランス、オーストリア、デンマークで生産された。EU の有機生乳の平均価格は 1 キロ当たり 56.6 ユーロセント(100.0 円)であった。

飼料コスト(穀物、菜種粕、大豆粕の混合物に基づく)は、2025 年 11 月以降上昇しており、現在は前年比で 26%上昇している。生乳価格の下落と相まって、生産者の利益率への圧力が高まっている。

図2:生乳取引価格(EU加盟国平均)



出典:EU historical prices. Milk Market Observatory.

直近の EU の平均乳製品価格は粉乳とホエイパウダーでは上昇しているが、他の乳製品は低下している

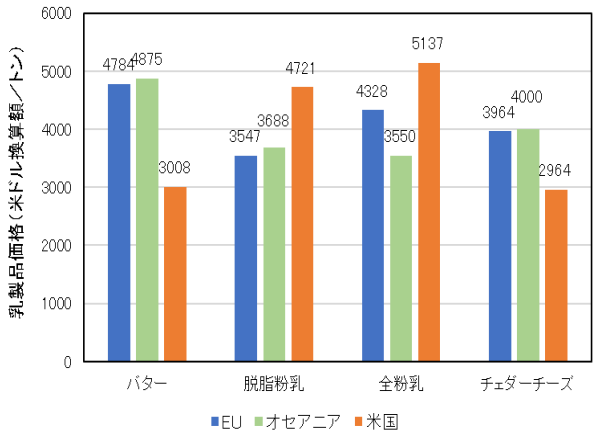
EU の平均乳製品価格(2026 年 9 月 20 日)は、脱脂粉乳とホエイパウダーの価格のみが前年よりも上昇しており、2026 年初頭から大幅に改善している(脱脂粉乳＋49%、ホエイパウダー＋39%)。また、全脂粉乳の価格は 2026

表:EU 加盟国の平均乳製品価格(2026 年 9 月 20 日)

	バター	脱脂粉乳	全粉乳	チーズ				ホエイパウダー
				チェダー	エダム	ゴーダ	エメンタール	
価格(ユーロ／100 キロ)	416	309	377	322	378	385	531	153
価格の比較(増減%)								
1 週間前	−0.9%	0.2%	0.8%	−0.3%	3.4%	−0.3%	−4.6%	−0.5%
1 か月前	3.2%	6.0%	5.7%	−3.9%	0.8%	0.6%	−2.5%	4.5%
2026 年初	−5.0%	49.0%	20.0%	−14.0%	−1.0%	−7.0%	−8.0%	39.0%
1 年前	−32.0%	36.0%	−6.0%	−28.0%	−19.0%	−21.0%	−17.0%	58.0%
5 年間の平均	−30.0%	14.0%	−5.0%	−24.0%	−14.0%	−13.0%	−10.0%	64.0%

出典: MMO economic board meeting report – 6 October 2026 (*1)を基にＪミルク作成

図3：世界の乳製品相場（2026年9月27日）



出典： MMO economic board meeting report – 6 October 2026 (*1)を基にＪミルク作成

年 1 月から 20%上昇している。バターの価格はここ数週間でわずかに上昇したが、前年比では 32%下落している(**表**)。

なお、三大輸出国・地域の中では、米国のバターとチェダーチーズ、EU の脱脂粉乳、オセアニアの全粉乳の価格が、最も低くなっている(**図 3**)。

乳製品の供給(国内生産量＋輸入量)から需要(国内消費量＋輸出量)を差し引いた残余量に基づく EU 在庫レベルの評価では、脱脂粉乳在庫量(20.5 万トン)は、健全な国内需要と強い国際のため、前年からの増加はわずかなものだった。バター在庫量(30 万トン)は、脂肪分の多い牛乳の生産需要が増加したため、大幅に増加している。チーズの在庫量(42 万トン)は、2026 年 7 月に減少に転じている。

世界の輸出国の大部分で生乳生産量が増加

世界の生乳生産量は 2026 年 1～7 月に増加を記録した。集乳量はアルゼンチン(＋4.9%)、ウルグアイ(＋10.5%)、ニュージーランド(＋4.6%)、米国(＋2.7%)、オーストラリア(＋4.2%)、英国(＋0.6%)で増加した。うち、英国のみ、過去数か月間は集乳量が減少している。

世界の 2026 年上半期の乳製品輸出量は、8%増加した。主にバター、チーズ、粉乳の輸出の増加によるものである。EU の輸出量は 14%増加し、輸出先は英国、中国、米国、インドネシア、マ レーシア向けが出荷量の 36%を占めた。成長率が最も高かったのはエジプト(＋86%)、インドネシア(＋22%)、マレーシア(＋14%)で、中国への輸出量は 15%減少した。

輸入品に対する堅調な需要は、世界の生乳生産の増加を吸収し、輸入量は特に東南アジア(＋14%)、ラテンアメリカ(＋10%)、中東・北アフリカ(＋9%)で増加した。近年、中国の購入は比較的控えめであるが、2026 年上半期は、中国、メキシコ、インドネシア、英国、マレーシアが世界の主要な乳製品輸入国であった。

天候、および地政学的緊張の影響

2026 年、小売部門は新たな不確実性に直面している。地政学的緊張、エネルギー・肥料コスト、天候不順が食料品価格のインフレを加速させると予想されている。一方、家計の信頼感の弱さは購買力に影響し、価格への感度を高める可能性がある。乳製品の消費はおおむね安定しているが、飲用乳への需要は減少し続けている。対照的に、チーズ、ヨーグルト、UHT(超高温瞬間殺菌)ミルク、アイスクリームは、消費者の嗜好の変化と季節的影響を反映して比較的好調である。

COPA-COGECA は、夏季の干ばつが生乳生産に及ぼす影響について発表した。干ばつと暑さは、中・南部ヨーロッパの生乳生産に深刻な影響を与え、穀物、トウモロコシ、牧草

の収量が減少し、生産コストが上昇した。フランス、スペイン、イタリア、オーストリア、チェコ、スロバキアについては特に厳しい状況が報告された。一方で、北欧では飼料不足が発生したものの、影響は少なかった。冬季の飼料不足は、牛群の減少を余儀なくさせ、生乳供給、農場の収益性および牛肉市場にさらに影響を及ぼす可能性がある。

主要輸出国・地域における記録的な生乳生産が続く中で、乳製品輸入国における旺盛な国内需要が世界貿易の流れを支えている。しかし、地政学的緊張、ホルムズ海峡閉鎖に伴う混乱、夏の干ばつの影響や新興シャモンダウイルス(Shamonda virus)(※1)を含む家畜の疾病に対する懸念が、市場に不確実性を与え続けている。

解説:

(※1)主に「ヌカカ」と呼ばれる微小な吸血昆虫によって媒介され、乳牛などに感染するアルボウイルス(節足動物媒介性ウイルス)の一種。近年の欧州での感染拡大やヒトへの感染確認などから、新興・再興感染症として酪農・畜産業界で改めて注目されている。

参考資料:

(*1)https://ec.europa.eu/transparency/expert-groups-register/screen/meetings/consult?lang=en&meetingId=75461&fromExpertGroups=3037
MMO economic board meeting report - 6 October 2026. European Commission.

(資料閲覧:2026 年 10 月)

(担当:Jミルク 国際グループ)